

稲田提出資料

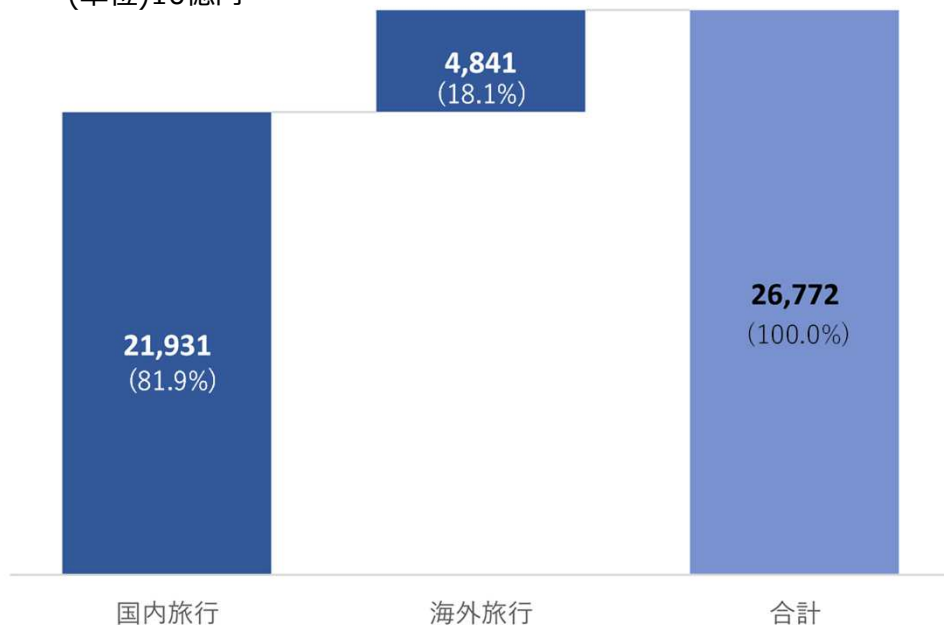
第3回 新たな戦略策定に向けた有識者懇話会
2020年8月17日

1. 観光支出の位置づけ

- 日本人の国内旅行の支出金額を見ると国内旅行は21.9兆円で全体の80%以上を占めているのに対し、海外旅行は4.8兆円と20%弱のシェアとなっており、**日本人の旅行消費は国内旅行が主である**
- 2020年1-3月期は宿泊・日帰り旅行ともに減少。特に日帰り旅行の減少が大きい。**手頃な日帰り旅行を削減しており、4-6月期も大幅減少が見込まれる**

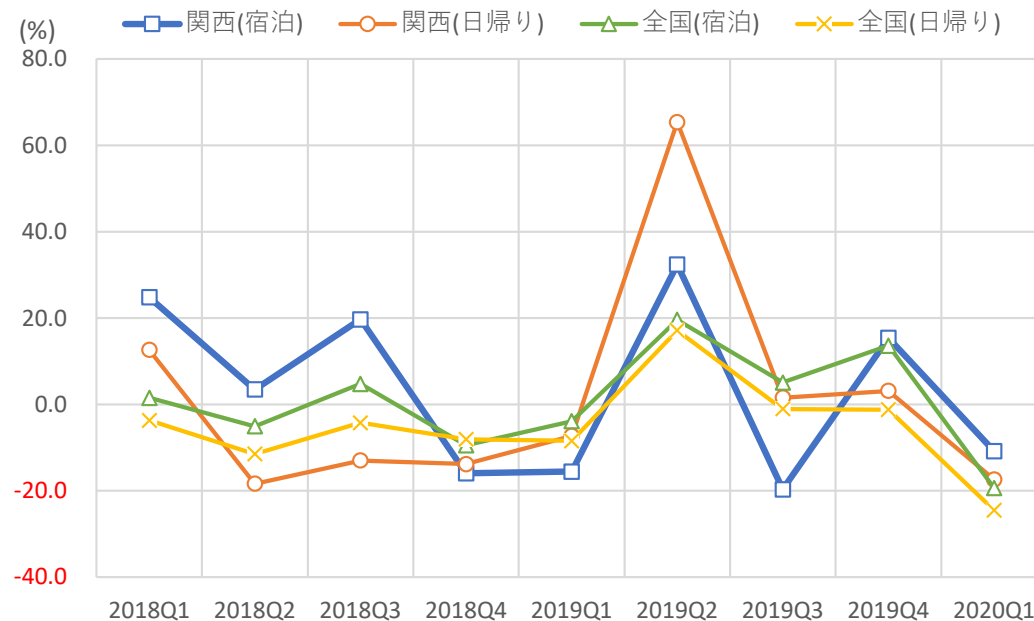
【日本人の旅行消費額とシェア(2019年)】

(単位)10億円



(資料)観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成

【旅行消費額の推移, 前年同期比】

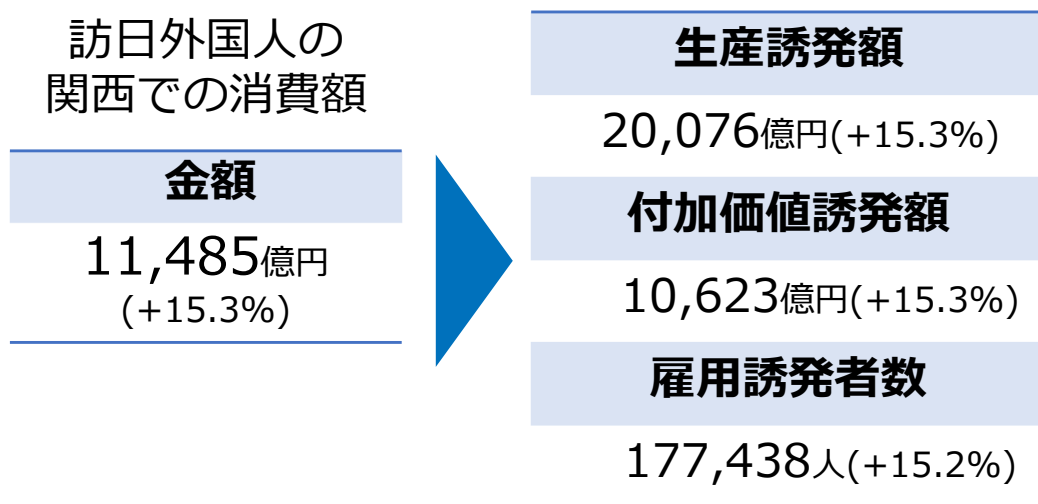


(資料)観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成

2. 訪日外国人の消費による経済波及効果(2019年)

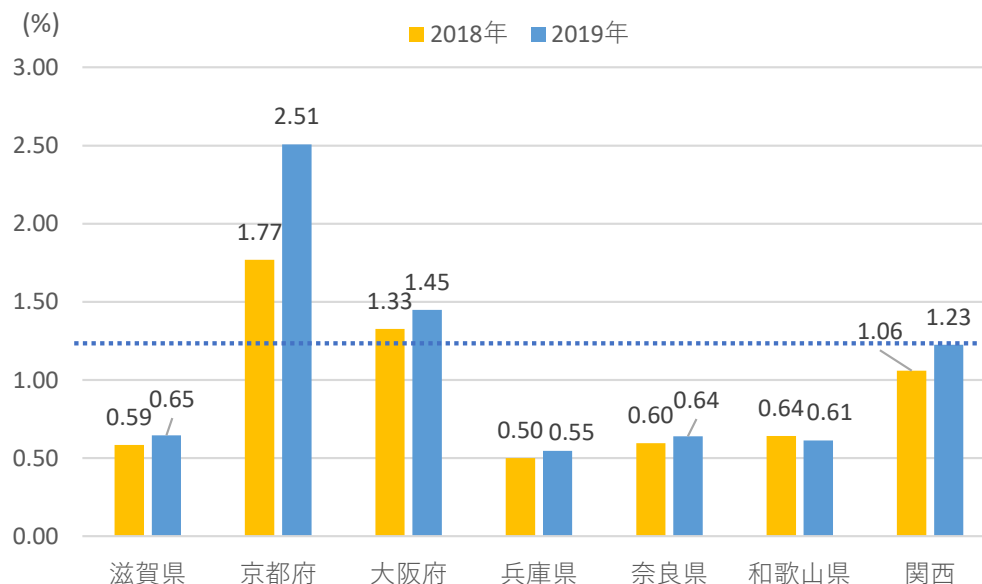
- 2019年の訪日外国人の関西全体への経済波及(付加価値誘発額)は**1.06兆円**。前年から15.3%増加し、昨年(+10.5%)に続き**2桁成長を維持**。関西の同年の名目GRPは86.6兆円(早期推計値)で、**外国人消費はその1.23%を創出している**
- GRPへの寄与度を府県別にみると、**京都府で2.51%**、**大阪府で1.45%**と大きくなっている。特に**京都府では外国人宿泊者数が前年から1.7倍(中でも中国は1.9倍)に増加していた**

【2019年の訪日外国人消費の経済効果】



(注) ()内は対2018年比
(資料)観光庁「宿泊旅行統計調査」、APIR「2011年関西地域間産業連関表」より試算

【域内総生産(GRP)に与える寄与度】

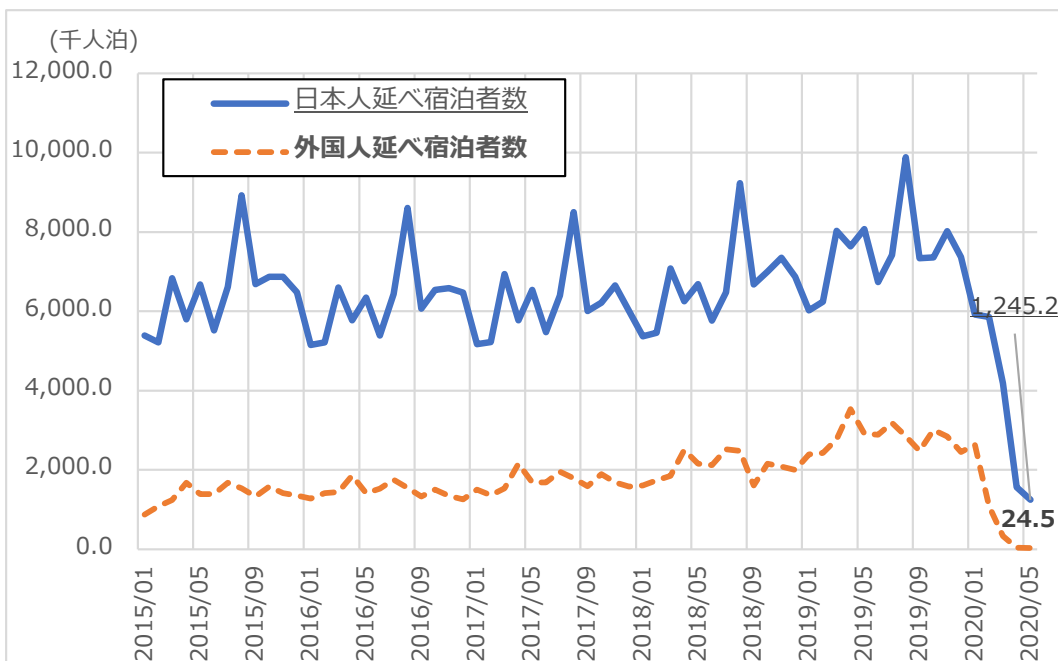


(注)2019年の各府県の実質GRP(早期推計値), GDPデフレーターはAPIR「Kansai Economic Insight Quarterly No49」の結果を利用

3. 関西2府8県 日本人宿泊者及び外国人宿泊者の動向

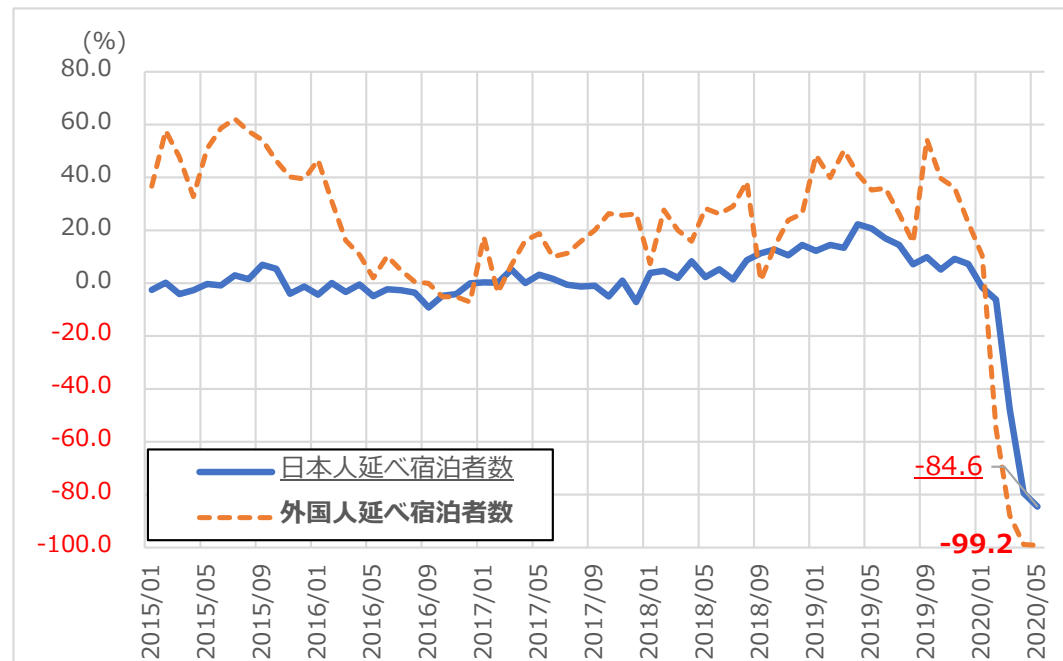
- 関西2府8県における日本人宿泊者数と外国人宿泊者数をみると、**足下2020年5月に大幅減少となっている**
- 伸び率をみると、日本人宿泊者より外国人宿泊者の伸び率が上回って推移している。しかし、**2020年5月には大幅マイナスに転じており、特に外国人宿泊者の減少幅は大きい**

【日本人及び外国人延べ宿泊者数推移】



(資料)観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

【日本人及び外国人延べ宿泊者(前年同月比)】



(資料)観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

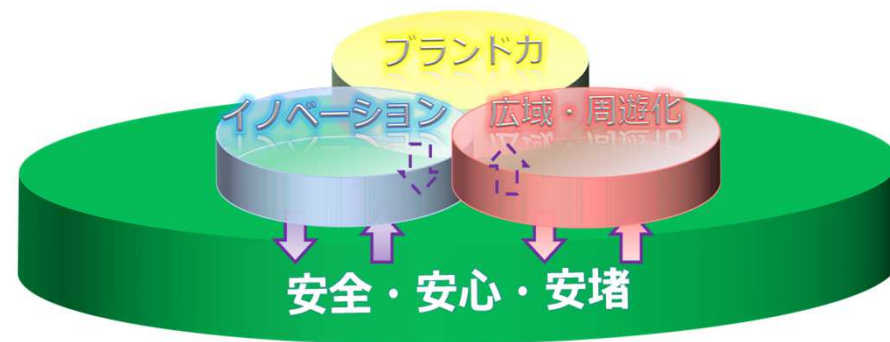
4. インバウンド消費の影響要因と分析の4つの視点

- 今回のコロナ禍では、超短期的な時間軸で起こる突発的事情に影響を受けるインバウンド産業の脆弱性が浮き彫りに。地域の観光事業者が自ら働きかけることができるのは、「財貨・サービスのブランド力の強化」にほぼ限定
- 「安全・安心・安堵」と、「ブランド力」「広域・周遊化」「イノベーション」を合わせた4つの視点から観光資源の価値を高め、訴求することが重要

【インバウンド消費の影響要因】

	需要側(例:中国)	供給側(日本)
長期	・訪日外国人の消費動向（一人当たり所得の動態、経済発展に伴う消費嗜好の変化等）	・財・サービスのブランド力の強化
中期	・景気動向 ・制度変更（転売規制等）	・制度的変更(ビザ緩和等)
短期	・為替レート ・国内政治経済情勢に関する不確実性 (米中貿易摩擦等)	・為替レート ・季節性 ・経済イベント(オリンピック・パラリンピック、国際博覧会等)
超短期	・突発的事情（自然災害・事故・パンデミック・テロ等）	・突発的事情（自然災害・事故・ パンデミック ・テロ等）

【インバウンド分析の4つの視点】



上の4つのは独立して存在するものではなく、互いに密接に関連し、互いの価値を高めあう関係にある